

「令和6年度 国スポ候補選手等の競技力向上に関する強化方策」

大分県の剣道普及・発展への貢献及び令和6年度国民スポーツ大会剣道競技における、各部門の競技力強化（入賞）に貢献するため、以下の基本方針等に基づき、令和6年度の強化事業を展開する。

第1 基本方針

全日本剣道連盟が教示する「剣道指導要領」を遵守しつつ、本県の国民体育大会候補選手等の競技力向上（強化）のため、各年代に応じた高度な術技指導等を行い、令和6年度国民スポーツ大会（ブロック予選を含む）での成年男女及び少年男女の入賞を目的とする。また、将来の有望選手育成の観点から、小・中学生男女で構成するジュニア強化部門と連動した強化方策を行い、将来的に「大分県代表選手として国民スポーツ大会・少年男女」に出場する、次世代国スポ選手（小・中学生男女）の育成を図る。

第2 重点方策

- 1 伝統文化として正しい剣道の普及と発展を念頭に、教育的及び技術指導の充実を図る。
- 2 各年代に応じた高度な術技及び試合状況に応じた対応能力（術技）の強化を必修とし、あらゆる試合状況に対応できる技術能力の向上を図る。
- 3 試合審判規則及び同細則やを運営要領を厳正に遵守し、その規則に対応した術技及び対応力を充実させ、優位な試合展開の確保と試合全体の活性化を図る。
- 4 少年男女、ジュニア強化の各部門委員と連携し、試合での技術向上を念頭に置いた質の高いレベルでの合同稽古（基本稽古時における技術強化、指導稽古等）を実施し、大分県剣道連盟が指定する強化選手全体の技術力等の向上を図る。

第3 年度目標

- 1 国スポ九州ブロック大会における「少年男女及び成年女子」の出場権の獲得
- 2 令和6年度国民スポーツ大会（佐賀県）における全種目での得点獲得
※ 本戦において少年男女4位以上、成年男女5位以上

第4 強化方策

- 1 攻め（圧力）を意識した「先」の打突（意識操作と身体操作技術を融合した理合）
 - (1) 鋭い攻めから、相手が退いた瞬間の「先」の飛び込み面・小手・突き
 - (2) 一足一刀の状態から「兆し」を読んだ「先・先」の飛び込み面・小手
- 2 「新型コロナウイルス感染症に関する暫定試合法」に対応する鏝迫り合いでの瞬間的打突
 - (1) 打突後の瞬時引き技（前後左右の体さばきを活用した引き技）
 - (2) 鏝迫り合いの一呼吸で、相手の体勢を崩してからの引き技・虚実の引き技
 - (3) 鏝迫り合いから、相手の瞬時の引き面・引き胴に対して、「先」を意識した引き技
- 3 連続技（打突動作）の錬磨（人体反応速度等を考慮した打突方法）
 - (1) 中心（構え）が崩れない相手に対しての連続技（巻き技、払い技、突き技）
 - (2) 手元を挙げて竹刀操作で捌いている相手に対しての連続動作
 - (3) 遠間からの連続動作（相手の「虚」及び油断を狙う）
- 4 相手の技に対するの対応技（判断応力による戦略的技法）
 - (1) 攻め込んでからの返し面（大技面）
 - (2) 攻め込んだ状態（攻め待ち）からの返し面（誘い技）
- 5 試合場を利用したあらゆる状況での対応能力（戦術等の頭脳プレー）の強化
 - (1) 相手が場外際等にいる場合（技を捌く、場外際から移動する、打突してくる）
 - (2) 自分が場外際等にいる場合（逃がさないように攻めてくる、打突してくる）
- 6 各部門連携した指導稽古の実施（レベル高い実戦的指導稽古）
 - (1) 小学生は中学生との互角稽古、中学生は高校生徒の互角稽古
 - (2) 高校生は、一般成年男女及び高段者（八段等）との指導稽古
- 7 成年女子部門選手の養成を目的とした段階に応じた強化方策
 - (1) 特に、産後等における女性剣士の再開を援助する別メニューでの強化
 - (2) 女子専門委員等と連携した女性剣士の活性化方策の検討・実施